

平成28年度 まちづくり懇談会

全地区会場の要旨

平成28年10月29日（土） 13:30～15:15

茅野市役所議会棟大会議室 参加者 17名

市長あいさつ

市長：みなさんこんにちは。朝方おひさまが出ている時は暖かい日になるかなと思いましたが、陰ってきてだいぶ寒い日になってまいりました。そんなお寒い中、また土曜日ということでいろいろご予約があるかと思う中、平成28年度まちづくり懇談会にご出席をいただきましてありがとうございます。これから皆さんと10年後の茅野市がこうなったらいいな、そんな思いを意見交換できたらと思います。テーマとして茅野市の未来予想図大いに語ろうということで、今日はまちづくり懇談会を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

—テーマと資料の説明 内容は宮川地区を参照—

市長：一様の説明は以上です。これからこれに基づきまして、またここに挙がっていないことでもかまいません。皆さんの思いをお聞かせいただければ大変うれしいと思います。また今日は若い女性の方が参加していただいて、大変意義のある会にしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

10年後といったとき皆さんは不安ですか。不安の部分も少しはあるんだろうけど、あんなこともできるかなと思うことの方が多いのか、どうかね。

市民：不安があるというのはお金の面が一番だと思います。子どもを保育園や小学校で見えていただきながら仕事もしているんですけど、子どもが高校、大学へ行くとすると不安がありますね。

市長：それは絶対あると思う。いつの世でもあるんだろうけど、私たちが育った昭和の時代は、基本的に右肩上がりの時代だったから、バブルがはじけるまでは、今大変でも明日は少しずつ良くなるだろうという時代だった。それに比べたら今はこの先どうなるんだろうということはあると思う。そのためにも大儲けはできなくても、確実な収入が保証されるという社会を作っていかなければ。これは茅野市だけではなく日本中に言えることだけど。経済基盤をいかに安定させていくか。子育てもね、茅野市は生きる力を育むというのを大前提としているけど、教育は、将来どうやって食べていくのかというのが根っこにないと。それがやっぱり現実にある。どんな形でもいい。自分がどんなことで生きていくのかを教育の中で教えていかなければいけないだろうと思う。その辺

は教育長さんをお願いしているわけだし、今までも茅野市の教育はそういった視点で取り組んでくれているよね。昔は、どうやって食っていただくという感じだったが、今は家庭ではどうだい。

市民：子どもは今はプロ野球選手になるって思っているんで、なってくればいいが。幼保小連携教育の成果かわからないが、高学年の子がすごく声をかけてくれたり面倒を見てくれるのはすごくありがたい。保育園から学校に行ったときや小学校から中学校に行ったときにはスムーズにいけるのかなと感じています。

市民：ゆいわーく茅野のチラシを小学校からもらってぜひ行きたいと思いました。今子育て中で仕事もしていて自分の時間が本当になんですよね。仕事が終わって子どもを迎えに行って、ご飯をつくってなるべく早く寝かしたいという思いと、あとは土日は子どもが野球をやっているんで。特別趣味があるわけではないですが、自分の時間がないなと思う。それでストレスになるかというわからないですけど、こういったところで子どもを遊ばせながら自分も楽しめるのかなと思いながら見たチラシだった。

市民活動センター準備室長：今回喫茶店もできるので、お子様連れでもハンディを持っている人たちにも優しい喫茶にしていくので、ソファやじゅうたんの部屋もあるので若いお母さんたちにも来ていただいて、おしゃべりしたり、その中で困っていること、子育てをしていると悩みはあるので、そういったことをお互いに話し合える場を作っていけばいいし、自分が困っていることはその下の人たちも困っていることなので、そういったことに役立てるようなことがあれば。今自分が困っていることを何かやっていくことでこれから後続くお母さんたちも同じ悩みになってくるから、それが地域の中に役立っていくことになることが多い。まちづくりに何かしようと思わなくて、自分たちが困っていることをどうやったら解決できるかなとかこんなものがあったら楽しいよね。そういう感覚で皆さんで考えてやっていく。クリスマス会も皆さんで楽しむのも一つだけれどそこを開いてもらって他の人たちにも来てねという情報発信をこちらでしていくので、どんどん企画してもらって。大変な中なんだけれどそれがストレス過剰になったりとかね。子どもも一緒に連れてきていい場所なので是非何かやってみていただければいいのかな。そんなこと思わずに来てもらっておしゃべりしてという感じでいいと思います。おしゃれなレストラン風にできたので、ぜひ来てください。0123のお母さんたちにもイベントの時に来ていただいたが、もうちょっと違う年代の人と関わりたいとか、そこから情報をもらいましょうかというときにゆいわーく茅野を自由に使ってもらおうといいかな。子育て経験のスタッフも何人かいますので、きっと相談にも乗れるかと思っています。

市民：集まってどこかに行っても子どもがワイワイしちゃうと余計にストレスになってしまう。NPO の子育てのに参加して仲良くなったお母さんたちが 10 人いるが、月 1 回は集まろうねといって今も続いているんですが、行くと逆に大変な思いをして疲れて帰ってくるとか。子どもを追いかけまわしたり、だめだよと言いながら、ゆっくりお話もできずに終わってしまうことも多々あるので。

市民活動センター準備室長：わくわくワークショップというのをやったお子さん連れで来て下さった。最後はお子さんたちはわんわんだった。お母さんたちが一生懸命つくるワークショップだったので、段ボールで素敵なものができたんですが。こどもたちも楽しめるわくわくハウスというのを作ったんです。上手に子どもたちで作ったが、その後壊すのに集中して楽しんでいました。お母さんたちも子どもと一緒にともに何か生まれてきたらいいのかな。お部屋もあるので使っていただければ。

市民：ぜひ活用したいです。

市長：せっかく教育長もいますので、学校のことが一番関心があるんじゃないかなと思いますが、どうですか。

教育長：10 年後と考えた時に 2030 年にこんな社会になるだろうというのがあって、人工知能によって今ある仕事の 7 割はなくなってしまうだろうと言われている。例えば車の運転など。そうなったときに 2030 年以降の人はどんな子どもを育てていくかというのは一生懸命考えないといけない。私が小学校や中学校の頃は、ちょっとでも勉強して人を追い越して、ちょっとでもいい高校や大学に入ればちょっとでもいい会社に入って金儲かるぞと言われてきたが、もうそんな話は全然なくなってしまって、どういう大学を出ようが仕事がない。私が教えた子どもで今 32 才になるが、そのうち 7 割が正規社員ではない。いわゆる非正規で。でも一生懸命働いて安定したいと言っている。2030 年以降の時代がうんと変わっていく。それからグローバル化という言葉が使われているが外国の方がいっぱいいる。私が一番思う子どもたちに必要な力は、単に頭がいいだけではなくて、人と仲良く一緒に仕事をして一緒にそれを喜んでくれるような子どもたちを育てていきたい。ただお人好しでニコニコしていればいいのかということではなくて、人と仲良く一緒に仕事をするを喜びに感じるための道具を持っていないといけないと思う。そのための道具の一つとして、外国の方も来るから、ある程度の英語を。それも今までの様な大学入試向けの英語ではなくて、友だちと仲良くなれる英語、コミュニケーションが取れる英語にすることが必要だと思います。それから ICT 教育、ものすごくコンピュータ化された社会となった時に、それをある程度使える。パソコンを使って考えられる道具を身に付けてもらいたい。今は読書というすごい道具を身に付けて

くれている。縄文科も例えば今 6 年生は野焼きをやっている。昔野焼きをやった時は、どれだけ楽しいきれいな土器をつくるかということを目的にやったが、縄文科だとそこを目的にするのではなくてみんなで土器をつくるには粘土をどこから集めてこようか。野焼きで火をたかないといけないから、火とわらをどこから集めるか。そういうことをやる中で、縄文時代の人はいかにたくさんの土を使ったんだから、一人で粘土や木を集めたら…やっぱりみんなの一つになって土器づくりに力を合わせたんだという体験を小学校ですることによって自分の生き方、みんなと関わって一緒に仕事をしていくことが楽しいことだという土台を作りたいという考え。それを小中で進めている。そうやっていくと結果としていわゆる学力も上がっていくだろうし、それもあげていかなければいけないのは確かですが。現実には保育園でも小学校でもいろんな問題がある。それを保護者の方と一緒に解決していくということも大切だと思います。

市長：教育長は今いい話をしてくれたが、それは保護者の方にはそういう思いを伝える場面があるかい。

教育長：つくらないとね。

市長：協力してみんなでする、この仕事にはあの人が必要だとなればニートにはならないのではないか。

教育長：今は大人がぎすぎすして対立ばかりしている。それをやめていきたい。

企画総務部長：どれだけ IT が進んでもやはり人の直接的なつながりというのは。

教育長：そこだけはね。今の最新の人工知能だと、東大の入試問題の 7 割が解けてしまう。プログラムを組めば解けてしまう。問題文をスキャナーで読み込んで。でもそこには人とのかかわりはない。

市長：自治会には加入しているか。

—全員している—

市長：区・自治会へのかかわりで、こうだったらもっといいのにとすることはあります。煩わしいと思うこととか、めんどくさいと思うこととか。いろんな役も回ってくるとは思います。

市民：組長をやったり、来年度は町内会長をやらなければいけない。あまり同世代の方はいないが地域の方々とは協力していければ嬉しいと思っている。なかなかちょっと子どもを見ていてくださいと言えないんですが、それに近い関係になっていければなと思います。城山には、広場はあるが遊具がなくて、なかなか子どもが集まらないとかは思ったりすることがあります。

市民：本町も同じ。昔はその辺の道などで遊んでいたが、今は道で遊ぶと危ないからダメとか。隣のお兄ちゃんが来て遊んだりしていたんですけど。

市民：区の文化祭など何かの時には集まれるが、それ以外の時には他の年代の方と集まれることがなかなかない。企画はしてくれているので、自分が時間が合わなくてなかなかそこに参加できないということかもしれないが。公民館の前でお茶しましょうというチラシは回ってくるんですが、実際なかなか活用できないというのはあるかな。

市長：今は安全を前面に掲げなければいけない。昔は遊具なんかないから野山で遊んでいた。けがなんかしょっちゅうしていたがそれが当たり前で、親もそれを気にもしなかった。大けがをすれば別だが。高齢者支援の居場所だけでなく何かあるんですか。今空き家が多くあります。1つ子どもたちに専用の空き家だと与えれば何をするかな。

市民：地区に1つとかあればいいかもしれない。

市民：公民館はあるけど子どもが自由に出入りできるわけではないので、城山ではよく入口の味噌蔵のところで子どもが何人か集まって宿題をしていたりしているんですけど。それが例えば公民館でいいよということになれば少し安心。

市民：大人が1人いてみていてくれればなお安心だし。仕事で遅くなった時に公民館にいてくれるとわかっていれば。公民館が開いているとわかればそこに行けるけど、かぎを持っていなければ僕はどこにいけばいいのかとなるし。

市長：そこにおもしろいおじちゃんがいてくれて。

市民：宿題見てくれたりとか、いろいろ教えてくれれば。

市民：地区で何かできれば横のつながりにもなると思う。

市長：公民館は壊してはいけないということがあるが、空き家を1つ借りて落書きして

もいいし好きにしろと言ったら何をすのかなとふと思った。そうすると地区センターの地区こども館か学童クラブはいらなくなるか。

市民活動センター準備室長：私は茅野に来たばかりでわからないが、そこは時間が決まっているんですか。地区こども館では遠くてだめということか。

市民：永明小学校の場合はわくわく館があるんですが、時間は5時まで。よく利用はしていて仕事終わりにお迎えに行っていたり。折り紙を教えてくれたりしている。ありがたい。

市民活動センター準備室長：ただ5時までだとつらいね。

市民：わたしは間に合いますが、間に合わない方々は。

市民活動センター準備室長：5時以降だと学校の中に学童クラブがあるんですよ。

教育長：学童クラブは5時半まで。

市民：いただいた資料で、地域のコミュニティの充実にいっぱい例がかいてあり、高齢者の支援がありますが、健康で長生きしていないとだめだと思います。健康維持という中で、たとえば茅野市には運動公園という素晴らしい施設があります。私も過去協会で10年ほど会長をやっていましたが、野球、ソフトボールができるグラウンドが3つあり、移動が車ではなく歩いてできるということで素晴らしい施設ということと、四季をとおしていろんなスポーツができるということで全国でも珍しいということを目にしております。ないのはスキー場だけが車山とかに行けばある。健康づくりにこういう施設をもっとPRしてもよいのではないかと考えています。それと市の体育協会には競技団体が40前後ある。そういう紹介をしておけば移住者にとっての魅力にもなり、スポーツもできて健康で長生きできるのではないかとPRも必要になると思います。

それからまちの魅力の向上、大学との連携によるまちづくり。諏訪東京理科大学をもう少しPRを。理科大は道から見ても森があって大学があるかわからない。道路から見えるような看板とかを出してもらえば、ドライブできた時にいいところだ、こういうところで勉強したいなということも感じられると思う。あと女性の学生が魅力的に感じる学部を作っていただきたい。男子も女性が多いといいという気持ちにもなるかもしれないので。

あとまちの魅力の向上ということで市街地、集落・農地、山、湖、文化財、食とあるが、食で水のおいしさをPRしてもいいのではないかと。以前理科大で茅野市の水はとてもお

いしいという話があったがあの話は途切れてしまっている。水が人間の原点の源です。茅野の水はどこがおいしいのか大胆に PR してもらって。私も仕事の関係で、いい水は超軟水。軟水は日本料理に使うのがいいそうです。だしを取ったり、お茶を飲んだり、コーヒーや水割りあるいは乳幼児に対して軟水は体に抵抗がなくて粉ミルクで溶かして飲ませるのにとってもいいと。食の中に水の PR を入れてみればいいと思います。

それから 21 世紀を生きる力を育むですが、英語の教育は本当に大切です。先日旅行でお風呂で片言で外人さんとしゃべったが、露天風呂に行きたいが行ってもいいのに行ってはいけないのか悩んでいて。私も露天風呂は OK だよという英語ができなくて、外にいると必ず外人さんがいます。英語の力があればいろんな話ができ情報がつかめるんじゃないかと。

ICT 教育も大切なことで、私なんかはキーをたたくのも嫌で嫌で、真空管という時代です。これからは絶対必要だと思います。ぜひこれも力を入れて教育していただきたいと思います。

それと学力向上と生きる力の向上ということですが、それ以上に、よく会話で人を想う気持ちでしゃべらないと言ったもの勝ちという感じがあります。諏訪へ来て一番驚いたのは言葉づかいが荒い。でもこれが普通の会話と聞いて、これじゃ喧嘩じゃないの。やっぱり会話は想う気持ちがないと共存していけない。中大塩という地区は全国から集まっています。当然生まれた環境も違うので、30 分の会合が 3 時間くらいかかって、そのうち止めようとなってしまうと、言いたい放題言ってもまとまらない。それもぜひ教育の一環として入れていただきたいと思います。

最後にゆいわく茅野の話聞いたんですが、たとえば情報を発信する中で、職員は何人いるんですか。

市民活動センター準備室長：社会福祉協議会から 2 名、正規職員が 2 名、それと臨時職員が 1 名と私の 6 人体制です。

市民：そういうことが載っていなかったものですから。

市民活動センター準備室長：まだ動き出さないと何人必要か分からないので。ぜひ足を運んでもらいたいと思います。

市民：暖かな気持ちを PR してもらえば自然に人がやってくるかなと思いますのでぜひ頑張ってもらいたいと思います。

市長：いろいろとご提案いただいてありがとうございます。運動公園の PR はあまりしていないのかな。茅野にいとそれが当たり前となっていますから、いろいろな場面で、

こういう公園があるというだけでなく、こんな使い方ができると。茅野の人間は「ひっけ」ってわかる？おしとやかでもなくて、引っ込み思案でもなくて、おれがおれがというのじゃないのが茅野市民なんですよね。でもこれから健康は大きなキーワードなのでPRしていきたいです。

それから理科大は299号線からはほとんど見えないですね。あれが見えるとそうかと分かる。林も大事なので切ってしまうわけにもいかないので考えていきたいと思います。それと水ですが、私が今持っているのは安曇野の水。茅野市ももうすぐです。非売品で会議などで出すものが11月末にはできてくるかと思う。茅野市の水は本当においしいので、PRしたいと思います。

市民：今保育園の年中と未満児で預けているんですが、保育園で運動公園に連れていってもらったり、博物館に連れていってもらう機会が年1回しかないんですよね。そういうのもっと増やしてもらえたら小学校に入った時の縄文教育もと。ただ遠いといけない保育園も出てくるので、いける機会を作ってもらえれば。たとえば親に無料券を配るとか、雨の日は子どもは無料開放しますとか。実際うちは博物館によく行きたいと言ってくれるんですが、人がいない。だったら遊べるように開放してもいいんじゃないかなと思います。

市長：さっき理科大に女子が大勢来るという話もポイントかと思いますが、小さい頃から理科に興味があれば理系女子になるかもしれないし、保育園でなるべくいろいろ経験させれば。

市民：より増やしていただければありがたいです。消防署の見学とか、親が連れていけないので、将来の夢につながれば。雨の日のコースによく組み込まれるが。

教育長：言われて気が付きましたが、日本で最高の博物館や考古館があって、バスで行けばいいなど。簡単な炊飯もできるのでみんなで行けばいいなど。

尖石縄文考古館長：保育園児はどんぐりを拾ったりして楽しんでいるがそれも大事な生きる力のひとつです。考古館に入りづらかったら、広い面積の草っ原でごろごろしたり、なかなかないので。ただひとつは遠い。もしよければ親御さんと一緒にきていただいて楽しむ。天気がよければ外で、悪ければ中でとか。

市長：市のバスは何人くらいだったか。保育園ならひとクラス乗れるか。どのくらい稼働しているか。



市民：それでより豊かになるなら

市長：市のバスなら運転手がいれば思いついたら、〇〇組さんいくよとか。

市民：全園だと大変なので。

市長：保育園によっては歩いていけるし。

市民：中央保育園は比較的いける。お散歩で博物館にいったらプラネタリウムが見られるという時はすごく喜んでた。

市長：あれは大人が見てもなかなか面白い。

市民：知らない人が多い。敷居が高い。

尖石縄文考古館長：モバイルという特性を生かして出かけるという事業が始まっています。

市長：ただ流れるのではなく宇宙旅行ができる。じゃあ土星まで行ってみましょうとか。そういうのはまさに ICT。

市民：小学校 6 年生と年長、年少の子どもがいます。これから中学校と小学校にあがり、保育園にもいって大変だなと思いますが、10 年後というより近々考えなければいけないのが、今玉川に住んでいて、送迎が大変になってくるのかなと思います。バスの利用を調べましたが片道 400 円ほどかかるそうです。そういう面での充実、送迎のサービスを作っていただけると、米沢や豊平も要望があると思うので、駅周辺の渋滞も減ってくると感じています。あと子どもの預かりの面で、仕事をもっと長くやりたいと思うとき、学童クラブが 5 時までというのは短いと思います。

子どもの教育ということで考えると、私も大学を出てやりたいこともあったけど、結婚して子どもが生まれてやりたいことができなくなって、娘にもいい大学に入るといろんな企業が選べるんだってよと言うんですが、その先を考えると、結婚出産があってもその先も続けられる企業がどれだけあるのか、茅野市にあるのか。正規で働いても残業しなくて帰れるのか、学童クラブが定時まで預かってくれるか。将来任せられる市であってほしいと思います。福祉の仕事をやっていたことがあり、富山型デイサービスというのがあるそうです。それは高齢者の介護デイから始まって、子どもの預かりもあり、小学生も障害のある子どもも帰ってきて放課後デイが始まるというのがあるそうです。そ

ういうところができてくるといいかなあと感じています。

市民活動センター準備室長：私の知り合いの方が富山でやっているんですが、宅老所だけでなく、宅幼老所という形でトップを切って始めた方なんです。今宅幼老所というものでおじいちゃんおばあちゃんが認知症が進まなかったり、お年寄りに見守られていると子どもたちも豊かになってくる。茅野でもそういうことが増えてくるといいですね。

市民：宅幼老所という名前は聞いても実際はおじいちゃんおばあちゃんしかいないのがほとんどですね。名前を見て伺うとそうじゃない。

市民活動センター準備室長：そうじゃないんですか。

市民：茅野にもいくつかありますが。

市長：ちょっと調べてみます。宅幼老所でも実際は老だけと。

市民：送迎の面でも、免許を持っていないお母さんで、5か月と2歳と年中さんといて、年中さんだけ違う保育園に行っているので、毎日歩いて30分くらい行くんですが、大変苦勞されています。いっしょの時は送っていくよというんですが、毎日とはいかない。地域の退職された方とかお手伝いできるボランティア団体とかがあればいいなと思います。

市民活動センター準備室長：ファミリーサポート制度が始まっています。そのシステムが地域までできてくると、そういう世代がお手伝いできるようになる。

市民：福祉推進委員というもの参加しているんですが、どうしても今は防災名簿がメインなんですが、自治会単位で動いていて、市に作ってくれと言われて、手探りで作っていて、できれば市がこういう方針でこういうアンケートを使ってとか基になるものがあれば作りやすいのかなと思います。入区の問題もあって、私も茅野市に来て3年くらいですが、入区しないと地区行事も参加しにくいので入区するんですが、大きなお金も必要で、諏訪はそういうお金は必要ないので、そういう制度の見直しもあっていいと思っています。じゃないと県外から人を呼ぼうとしても引つかかる。そういうところも見直しが必要かと思います。

市長：大事なことをいろいろお話いただきました。入区の話はここ何年も投げかけていて、入区金がない区もあります。20万とかのところもあります。それで違うところ

にしたという例もあります。引き続き役のあり方とか、入りやすい、今に合った形態にと取り組んでいます。それをやり始めて入区金を下げたとか、少し区費も安くしたとか、変わってきています。それとバスの件ですが、10月から体系が変わったんですが、通勤通学の保護者の方も入っていただいて議論したんです。そうすると送迎の時間しか会話する時間がないんだと。バスで通わせることはすべての地区ではないができなくはない。通勤の途中で子どもを駅に下ろすのはかなりあって、アンケートをとったんですが高校生でバスを利用するというのは非常に少なく、今回は中学生と通勤をメインに考えようとして組んだ。駅の混雑を考えると、せめて朝はバスに乗ってきてくれればと取組はいたしました。

本当に前向きな意見をいろいろいただいて有意義な会だったと思います。10年後にすぐやれることは手をつけていきたいと思ひますし、これからの計画にしっかり位置づけていかなければいけない。そういった課題は総合計画に盛り込んでいきたいと思ひます。今日は本当にありがとうございました。